

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102277		
法人名	特定非営利活動法人さわやか福祉ネットワークぎふ		
事業所名	グループホーム千寿庵万葉		
所在地	岐阜市神室町3丁目1番地1		
自己評価作成日	令和5年7月14日	評価結果市町村受理日	令和5年9月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouvoCd=2170102277-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和5年8月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気の中、利用者、家族様に安心していただける介護の提供を心懸けています。毎日の生活の中で利用者様の希望に沿った介護を提供しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は街の中心部にあり、周辺には多くの商業施設がある。図書館も近く、近隣の神社やアーケード内は散歩コースでもある。介護保険スタート期から開設しているホームであり、勤続年数の長い職員も多い。利用者も職員と言いたいことを気兼ねなく言い合うなど、家族同然の関係の中で笑顔の絶えない生活を送っている。経験豊かな職員と若い職員が、互いに持ち味を活かしながら支援することが、利用者の元気な源にもなっている。レクリエーションやリハビリ体操、介護エステ等を企画するなど、いつまでも利用者が元気でいられるよう化粧を楽しむ支援も行っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者に対して良好なコミュニケーションが図れるように、また職員同士のコミュニケーションのために月に1度ミーティングで話し合う機会を設けています。	理念は「出会い、ふれあい、学びあい」とし、利用者や家族にも理念の実践を示せるよう、玄関に掲示している。日々、支援を通じて正しく実践できているかを振り返りながら、話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣での買い物やあいさつを通じて顔なじみの関係性をきずいています。資源ごみの当番担当を受け持ち交流しています。自治会会合等に参加しています。	地域のごみステーションや資源回収の当番を担うなど、積極的に地域活動に参加している。自治会の行事などにも住民から声がかかり、参加している。コロナ禍での利用者の生活状況なども心配していただくなど、良い関係が出来ている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況報告をして意見をいただきます。近隣の方にも参加を促し協力いただいています。コロナ過においては社内会議後、別紙意見をいただき議事録に反映しています。	運営推進会議は書面会議で行い、関係書類を行政に届けて意見交換を行っている。自治会や関係者にも送付している。今後は対面での開催を予定している。事務局長は、日頃から自治会長と密に連絡を取り合い、地域の情報や助言を得ている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	感染予防対策物資の支援を受けたり陽性者の報告等連携して助言や指導をいただいています。	行政や地域包括支援センターにも、運営推進会議の資料を届け、新型コロナ最新情報等の提供を受け、利用者サービスにつなげている。行政主催の会議には積極的に出席し、他の事業所とも交流しながら、取り組みの参考にしていく。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除の指針を作成してミーティングで情報共有しています。定期的に身体拘束の有無について振り返りを行います。	身体拘束等の適正化検討委員会を定期的に開催している。身体拘束排除マニュアル、身体拘束廃止の指針等の資料を基に、内容の確認など具体的に行っている。代表をはじめ職員も参加し研修の場にもなっている。昼間の施錠は原則行っていない	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切な介護や過度な拘束は虐待と認識して普段からお互い職員同士で気をつけあいます。スピーチロック等言葉使いを意識していく事を話合います。	身体拘束廃止委員会、虐待防止委員会を同日に行っている。不適切なケアにあたらぬかを常に意識しながら支援している。管理者は職員の心に余裕がない様子が見られた場合、助言をするなど、メンタル面のサポートを行うよう心掛けている。	

岐阜県 グループホーム「千寿庵万葉」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在自立支援制度1名、後見制度2名利用されて毎月訪問していただきます。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面談の中で本人、家族の要望を尋ねホームができる事できない事を伝え、リスクについての説明も行います。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン更新時に要望書を送り希望が無いかを確認します。オンライン面会を希望者には実施して要望がないかの確認をします。	担当する職員が、毎月、利用者の状態について、生活状況、食欲、現在の様子など詳しく記述し報告している。便りは、家族からも意見や希望を求められる書式であり、意見交換を行いながら、要望等をサービスに反映するよう努めている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のミーティングを通じて情報を共有して意見や提案があれば話し合える機会を設けています。	開設当初からの職員も多く、職員からの提案と改善は当たり前になっている。改善が適切でなければ、再度話し合って訂正を行っている。管理者は、申し送りやミーティングで全体の意見を把握し、職員と共に利用者本位のサービスにつなげている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	要望を聞く機会を設けて個々に対応しています。キャリアパス制度の活用。	就業規定や雇用契約に基づいて、職員個々の希望に沿ったシフト作りに努めている。管理者は職員が仕事と家庭の両立ができるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境整備に努めている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や資格取得などの積極的な参加を促し、希望に沿って研修費の支援や有給制度の利用を活用しています。	職員一人ひとりの介護力を高められるよう、資格取得やオンライン研修への参加を支援している。管理者は、先輩職員が、利用者一人ひとりに合ったケアを新人に教えたり、新人から先輩職員が介護の基本を改めて学ぶ場合もあると捉え、相互の学び合いを個々の成長に繋げられるよう指導している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会のメンバーとの情報交換や、居宅ケアマネからの見学等に応じています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個別に利用者の話に耳を傾け、スキンシップなど状況に合わせて対応しています。利用者間にトラブルがないように調整を図ります。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に食事や外出の希望を尋ね対応しています。	現在は自分の思いや意思を表明できる利用者が多く、思いに添えるよう支援している。困難な場合は時間をかけ、解決の糸口を見つけ出し、対応している。入浴支援などでは、できる限り希望に添えるよう取り組んでいる。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、スタッフが家族の意見を参考に話し合いをしています。訪問看護での看護師の助言を参考にします。	管理者とケアマネジャーは、家族の訪問時に利用者の状態について、丁寧に意見交換をするよう努めている。ケアプランについては、今現在は家族を交えた会議が持てないため、家族の希望を聞きながら、専門職を交えて適切に介護計画作りを行っている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録を参考に改善点をミーティングで話し合い、介護計画の見直しに活かしています。	個別ケアの内容は、申し送り時に伝え、申し送りノートにも記録している。ケアを実践した際に、うまくいかなかった場合には職員間で話し合い、英知を出し合いながら、より良い支援に繋げ情報を共有し見直しに活かしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科医療、福祉用具レンタル等必要に応じて取り入れています。専門医療機関への受診支援を行っています。	利用者の残存機能を発揮できるよう、作品作りや音楽療法、リハビリ体操を支援している。いつまでも健康で美しくいられるよう介護エステなど、化粧やファッションを楽しめる支援も行っている。	

岐阜県 グループホーム「千寿庵万葉」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	包括支援センターや病院、近所のお店など交流を図りながら支援しています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の了解を得て定期的に内科嘱託医に往診してもらい訪問看護や訪問歯科を受診しています。整形外科や眼科等外来受診支援を行います。	入居時にかかりつけ医についてや、嘱託医との連携等を利用者・家族に説明し理解を得ている。定期的な往診があり、訪問看護ステーションとも連携している。緊急時には、医師の適切な指導を受けながら、24時間安心できる医療体制で支援している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	嘱託医を通じて迅速に対応しています。入院先への情報提供や身の回り品の準備を手伝います。	嘱託医と連携し、入院先に情報提供を行なっている。家族の協力も得ながら、事務局長が医療機関と情報交換し対応している、退院後は、利用者が、安心してホームでの生活を再開できるよう医療機関や訪問看護師との関係作りに努めている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	嘱託医と家族、本人の3者で方針を決めて方針が反映されるように対応します。ホームで出来ることを早期に家族に伝えます。	入居時に、重度化や終末期のあり方について、事業所の指針を説明し利用者・家族が同意書を提出している。状態の変化時には早い段階で話し合い、支援方針を決めている。看取りを希望する家族が多く、再度説明を行い、チームで看取り体制に入っている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には訪問看護に連絡を入れて対応しています。到着までの処置の仕方等については研修等で話し合いをしています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難マニュアルの作成、年2回の避難訓練実施と報告。避難時の飲料水や薬、紙パンツ等備品の確認。家族の連絡先を掲示して緊急時に対応できるようにしています。蓄電池の購入等。	年2回、火災や地震等について避難訓練を行い関係機関に報告している。自治会にも相談し、避難場所として、近隣の商店の敷地を借り、誘導をしている。水害時は事業所の2階への移動とし備蓄も最低限ではあるが整え、周辺の商店との協力関係もできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対する声かけや態度に十分配慮して対応の仕方について話し合いをしています。利用者本人の話を否定せず思いに合わせた対応を取るよう取り組んでいます。	利用者一人ひとりの人格の尊重とプライバシー保護、傾聴等について、年間研修計画として定期的実施している。居室からの誘導の声掛けなども、調査時に目に止まったが、利用者への気遣いは気持ちが動く誘導であった。排泄や入浴支援などもプライバシーに配慮した対応が行われている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	顔の表情や、態度、言葉などで何を希望しているか感じ取り話を聞くようにしています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調により入浴の方法を変えたり食事のメニューを変えたりして希望に沿った生活をしてもらいます。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れ手作りで提供しています。一汁三菜を基本に野菜を多く取り入れています。食事前の消毒や食事の後片付けを手伝っていただきます。	利用者の希望を取り入れながら、三食手作りである。食材は近隣の店を利用し、地域との関係を築いている。旬の食材を多く取り入れながら、利用者も準備が片づけなど、出来ることを手伝っている。	新鮮な季節の食材で、職員が創意工夫しながら家庭的な食事作りに努めており、利用者に好評である。今後も継続しながら、定期的にバランス面で栄養士等の指導助言を受けながらの支援に期待したい。
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量や水分量を記録して不足している物には補助的な食品で補っています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月一度の歯科衛生士からのアドバイスを通じて対応しています。	食後は、利用者の口腔ケアを行っている。歯の大切さは月1回の歯科衛生士からアドバイスを受け、利用者も認識し一緒に行っている。補助が必要な利用者には職員が手伝っている。歯科医師の訪問往診も受けている。	

岐阜県 グループホーム「千寿庵万葉」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせてトイレ誘導を行います。早めのトイレ誘導で排泄の自立を支援しています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回を基本に体調によって柔軟に対応、補助具を活用したり2人介助で対応しています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を配慮した上で運動を交えています。精神的に安心して頂けるように心懸けています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報の副作用等に気をつけて情報を共有します。体調に変化があれば訪問看護等で相談します。飲み忘れがないか確認します。	服薬管理は、目的・対象者・飲み終わるまでの確認等、職員間で徹底している。小人数でもあり、全職員が利用者の健康状態を詳細に把握している。体調変化に気づいた時は早期に看護師と相談し、医師と連携を図っている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居間でテレビを見ながらスタッフとおしゃべりをしたり、部屋で過ごされたり一人ひとりに合わせて対応しています。体操や個別のリクエストを聞き音楽をテレビで流します。	利用者の今までの生活歴を活かし、調理の手伝いや洗濯物畳みなど、役割を持って暮らせるよう支援している。職員の感謝の言葉が、利用者の喜びや自信となり、個々の自立にも繋がっている。様々な作品作りも気分転換となっている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	オレンジカフェの再開に伴う参加や個別に弘法参りやドライブに出かけます。	コロナ禍で外出は控えていたが、感染予防対策をした上で図書館に出かけたり、柳ヶ瀬内で短時間散歩している。今後は、家族や友人との外出機会も支援し、利用者がワクワクできる行事を企画している。	

岐阜県 グループホーム「千寿庵万葉」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状況に合わせて無理のない支援をしています。自分で管理されている人もいます。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やファックスを自由に使ってもらいます。手紙は本人に手渡し、後で確認を取ります。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは清潔を心懸け、使用した後はチェックしています。居間は花や写真、季節ごとの飾りつけをして、暖かい雰囲気が出せるようにしています。	玄関や居間、廊下には、利用者の手作り作品や季節の花、写真等が飾られている。感染予防対策をしながら、利用者が好きな場所、好きな椅子で心地よく寛げるよう工夫している。程よい照明のある階段とエレベータがあり、安全に昇降できる。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	部屋にいたい時とリビングにいたい時と本人の希望を優先させています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や食器を持ってきてもらうなど本人の希望に沿う形で対応しています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	設備面で手摺や床材などスタッフが相談して対応しています。		